

## 優良経営体事例

### 近藤 徹 氏

調査日 令和2年7月

所在地 香川県観音寺市

経営主 近藤 徹

主要事業 露地野菜部門

主要作目 ブロッコリー 5.5ha  
スイートコーン 1.2ha  
水稲 2.2a

就農タイプ 継承

法人化 個人経営

売上 3,700万円

労働力 家族4名(本人、妻、子、子)  
臨時雇用10名

## ヒストリーあらすじ

・香川県農協に勤めながら、兼業で両親とともに農業を営んできた。農業がしくて知識を得たいと県農協に就職するくらい、農業が好きだった。

・定年まで2年を残して早期退職し、平成20年に専業農家になった。それまで、タバコやアスパラガス、キュウリ、レッドキャベツなど様々な品目を生産してきたが、平成19年からはブロッコリー主体の経営を行っている。

・機械化による省力化、臨時雇用の導入、作付体系の検討により規模拡大を行い、ブロッコリーの作付面積は、平成20年は70aであったが、現在は5.5haまで増えている。

・多面的機能支払交付金制度取組組織の会長や土地改良区の総代、水利組合総代、農業委員など、地域活動の役員を積極的に引き受けてきた。農業委員としては、地域の耕作放棄地の農地整備を行うなど、放棄地解消に尽力した。

・息子たちもそれぞれ農業以外の仕事をしながら、休日など農業の手伝いをしていていた。いずれは農業をしたいとの思いはあったが、規模拡大が順調に進んだことから、予定より早く、平成30年2月に次男、4月に三男が続けて経営に加わった。

・立毛品評会で2度受賞するなど、品質には強いこだわりを持っている。品質の高いものをつくることで、収量・単価向上はもちろん、作業性の向上にもつながっている。

エッセンス	
●品質にこだわり	・ほ場をきれいに管理することで、次作に雑草の種を残さない。 ・10年日記で経験を記録に残す。 ・残渣すき込み、ソルゴー作付による土づくり
●作業効率の改善	・機械化体系により効率化 ・出荷は全量JA。栽培管理に集中する。 ・品質を上げることで、調製作業などを省力化
●地域とともに	・地域ぐるみで農地を守る。 ・地域の方を雇用 ・各種役員としての取組



近藤氏(左)と妻、息子たち  
(お気に入りの水車小屋の前で)



ブロッコリー移植作業

令和元年度 ブロッコリー栽培管理

圃場名	面積	品種	播種日	収穫日	株数	収穫量	単収	備考
1001	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1002	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1003	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1004	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1005	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1006	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1007	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1008	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1009	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1010	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1011	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1012	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1013	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1014	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1015	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1016	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1017	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1018	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1019	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1020	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1021	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1022	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1023	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1024	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1025	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1026	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1027	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1028	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1029	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1030	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1031	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1032	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1033	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1034	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1035	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1036	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1037	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1038	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1039	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1040	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1041	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1042	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1043	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1044	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1045	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1046	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1047	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1048	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1049	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	
1050	10	ブロッコリー	10/1	11/1	100	1000	10	

作業が一目で確認できるほ場一覧



基幹となるブロッコリー



きれいに管理されたブロッコリーほ場

# 近藤徹氏 ヒストリー

就農期 (昭和43年～平成19年)	転換期 (平成20年～平成28年)	確立期 (平成29年～令和元年)	発展・将来構想 (令和2年～)
<p>●両親の農業を手伝う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両親も兼業。葉タバコを生産。</li> <li>・就農を視野に入れ、香川県農協に就職し、地域の農業振興に携わる。</li> </ul> <p>両親が作っている葉タバコの1反当たり売り上げは、隣の家の葉タバコの半分しかなかった。このことで単位当たり売上を上げることを意識するようになり。</p>	<p>●H20(2008年)早期退職し専業農家に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就農時の作付規模は、ブロックリー70a、スイートコーン35a、水稻73a。</li> </ul> <p>機械化による作業省力化、借地の簡易基盤整備により作業性向上。臨時雇用の導入により、徐々に規模拡大。</p>	<p>●H30(2018年)後継者が就農</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次男、三男が続いて就農し、それぞれの役割を明確化するため、家族経営協定を締結。</li> </ul> <p>就農前から規模拡大を行い、就農後の給与が払えるような作付体系とするなど、経営シミュレーションを行い、準備を進めてきた。また、後継者の就農を機に、労働環境の改善も考えるように。</p>	<p>●効率的な作業体系、品質の追及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次男独立により家族労働力は減少するため、規模拡大よりも規模を維持することを重視し、体制を整備する。</li> </ul> <p>基盤整備や作業体系の改善による農作業の効率化など作業性の向上を図る。また、秀品率の向上など品質面はこれからも追及していき、収益性の高い経営を継続する。</p>
<p>●両親に代わり主体的に経営を開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妻も他に仕事をしていたが、労働力は夫婦と両親のみ。</li> <li>・様々な作物の栽培を経験。</li> </ul> <p>兼業で働きながら生産できる作物を模索した。アスパラガス、キュウリ、レッドキャベツなど</p>	<p>●ブロックリー作付開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械化により、作業を省力化・効率化し、規模拡大。</li> <li>・地主の了承のもと借地の簡易基盤整備を行い、作業性を向上している。</li> </ul> <p>実は注文していた他の品目の苗が手違いにより来なかったことがきっかけ。作ってみると自分に合っていると感じ、徐々に手ごたえをつかむ。</p>	<p>●地域との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のため、地域の様々な役員を引き受け。</li> </ul> <p>担い手不足により管理が不十分となりつつある地域の農地を維持するために、地域ぐるみで農地を守る仕組みづくりに向け、地域での話し合いを進めたいとの思い。</p>	<p>●円滑な経営継承</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来る経営継承に向け、計画的に準備を進める。</li> </ul> <p>生産管理技術はもちろんのこと、経営管理能力の習得に向けた取組を進める。</p>
	<p>●品質向上に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模造紙に記入し、全てのほ場の管理状況を把握。</li> <li>・10年日記で過去の管理状況を把握。</li> </ul> <p>経験に新しい技術を加えることで、常に向上を目指す。既に知られた肥培管理にも疑問を持ち、提案しながら産地全体の底上げを図る。異常気象が頻発しているが、経験で乗り越えられると考えている。</p>	<p>●次男独立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で経営をしてみたいと、R2年に両親とは別の品目で独立</li> </ul> <p>品目は違うが、高品質な農産物をつくりたいとの思いは同じ。</p>	

近藤徹氏 <課題と対応策>

フェーズ		就農期 昭和43年～平成19年	転換期 平成20年～平成28年	確立期 平成29年～令和元年	発展・将来展望
主な出来事		・両親は葉タバコ、米麦経営	・専業農家になり、ブロッコリーを主体とした経営に転換	・後継者2人の就農	・次男が独立就農
経営課題	ヒト・組織	本人、妻、父、母の家族労働	本人、妻の家族労働 拡大に伴い労働力不足	本人、妻、後継者2人 労働環境の改善	経営継承
	土地・設備	自作地中心(40a)	自宅周辺の農地を借入規模拡大 借地の簡易基盤整備	規模拡大 機械化体系の確立	規模は現状維持
	カネ	自己資金	設備投資	設備投資	設備投資
	技術・ノウハウ	栽培技術の習得	収益率の向上	ブロッコリーの長期出荷体系の確立 新規品目の導入	新規品目の導入
	販売・販路	JA等出荷	全量JA出荷	全量JA出荷	全量JA出荷
	情報	地域の農業者	地域の農業者 県内生産者(部会等)	地域の農業者 県内生産者(部会等)	地域の農業者 県内生産者(部会等)
	地域		耕作放棄地の解消	耕作放棄地の解消 JAインターン生受入	農地の利用調整 JAインターン生受入
	具体的内容	・兼業農家として経験を積む。 ・兼業のできる品目を模索	・生産に集中するため、出荷は全量JAとした。 ・残渣すき込み、ソルゴーやスイートコーンによる土づくり	・ニンニクや枝豆など様々な品目を取り入れたが、家族の労力を考慮した収支状況から、新規品目としては定着していない。	・円滑な経営継承(10年以内)
対応策	・様々な品目を経験し、独学で知識を習得	・臨時雇用、作業支援を活用 ・10年日記で経験を記録に残し、次年度の改善に生かした。 ・品質向上により、収益率が向上するとともにほ場での選別作業や調製作業時間の短縮 ・パソコン簿記記帳による収支・財務状況の把握	・後継者の就農に合わせ、家族経営協定を締結し、それぞれの役割を認識 ・単価の高い時期に出せるよう、資材の工夫や技術習得に努め、10月から5月まで長期出荷できている。 ・移植機や収穫台車導入による省力化、弾丸暗渠機や溝堀機による排水性向上	・簡易な基盤整備などによる作業性向上により、ほ場を使いやすくすることを重視する。 ・円滑な経営継承に向け、伴走体制により技術・経営面での知識を後継者に修得させる。	
外部環境		・異常気象頻発	・野菜価格低迷		